

平成27年度美濃加茂市議会 議会改革特別委員会主催  
石川県かほく市議会行政視察 (H27.9/29)

## 「議会による事務事業評価と執行部への提言について」

- ・ 参 加 議会改革特別委員会 委 員 長 柘植宏一  
副委員長 金井文敏  
委 員 山田 栄  
高井 厚  
村瀬正樹  
坂井知足  
日置祥子  
参加議員 渡辺孝男  
酒向信幸  
牧田秀憲  
渡辺益巳  
佐合広和  
前田 孝  
片桐美良  
森 弓子
- ・ 随 行 美濃加茂市議会事務局 局 長 井上政司  
芝辻竜也
- ・ 随 行 美濃加茂市経営企画部行政経営課 森川英司 (行政経営係長)





### かほく市議会 杉本議長あいさつ

7月に美濃加茂市へ行政視察にうかがったことが縁となった。限られた時間ではあるが、議会による行政評価、決算審査等について研修していただき、有意義なものとなることを祈っている。

### 美濃加茂市議会 柘植委員長あいさつ

両市は、企業立地や自然等から、似たような環境にあると思う。そのような中、議会改革についても私たちと近い意識をもって進めてみえるのではないかと思う。貴市の議会による行政評価や市長への提言のように、本市も提案・提言できる議会を目指している。本日の率直な意見交換を、本市の議会改革につなげていきたい。



## 意見交換の主な内容

<構成メンバー、研修、執行部の行政評価シートについて>

Q 監査委員は委員として参加しているか。

A 監査委員も含んだ全員で決算審査を行う。全国市議会議長会にも確認したが問題ないとのこと。監査で知り得た事について発言を控えるのは当然。議会による行政評価では、お金のことよりも事業自体が必要であるかどうかを審議する。

予算決算常任委員会としているのは、予算決算の分割付託を避けるため。ただし、分科会形式で行っている。

Q 委員会で行った研修の内容は。

A 金沢市の外部監査員を務める公認会計士を招き、「決算の着眼点」をテーマに行った。

Q 行政評価シートの基本情報や数値を拾い上げるコンピューターのシステムを執行部は持っているか。

A 持っていない。それぞれの部署で資料作成している。

<議会による行政評価の対象事業の抽出について>

Q 議会による行政評価の対象は、総合計画とつながっている事業か。

A シートの基本方針欄に主要施策が入っていると総合計画につながっている。なお、成果が出にくい事業、児童手当のような義務的な事業は評価対象外。

Q 評価対象事業の抽出方法は。

A 昨年度指摘した事業は、今年度も評価対象となる。そのほかは、それぞれの委員が精査した結果をもとに話し合う。対象部署の偏りも考慮する。先進地では、抽出事業数を絞って深い審議を行っている。無意味な事業はひとつもない。いいと思えば応援してあげたい。



Q 継続して評価対象とする事業は、各分科会で拾い上げる事業のうちの割合を定めているか。また、継続して評価対象とならなくなる時期はいつか。

A 継続して評価対象とする割合や評価対象とならなくなる時期は特に定めていない。対象事業は各分科会で委員間の協議で無作為に拾い上げている。ただし、担当部署の偏りが無いよう配慮する。

Q 行政評価の対象事業291事業から議会の行政評価対象を抽出するのは大変ではないか。

A 義務的な事業や類似事業を整理していくと、それほど多くはない。それぞれの分科会で約20事業を抽出するが、議員は勉強しておかないと抽出は難しい。経験を積むと、事業の内容がわかってくる。

議会による行政評価の席では、執行部と本音で言い合いをする。その結果として、改善につながっている事例がいくつかある。反対に、執行部として譲れないというものもあった。執行部と意見を交わす場所は大事である。

Q 関心の高い事業を抽出するにあたって、市民満足度を測定したことはあるか。

A 市民満足度の測定は行政の仕事。議会としては、議会報告会でうかがっている。

報告会は、開催してもなかなか人が集まらない。今年からテーマを絞って開催することで、より親しみを持っていただきたいと考えている。

#### <評価の実施について>

Q 事業評価にかかる時間と執行部の出席者の範囲は。

A 限られた件数であり、事前に配布した評価シートの内容を委員が精査してくるので、さほどの時間はかからない。執行部の出席者は、課単位で補佐以上となる。

Q 全体的に評価が高いように感じられるが、評価の基準はどのようになっているか。

A 評価基準に基づき、必要性、妥当性、費用対効果、成果を採点する。制度はあっても実績がないものについては0点が妥当だが、本来それは決算認定の時ではなく予算編成の時に指摘しておくべきと思う。廃止はないが、改善を求める。

Q トップダウンの事業に対する評価はどうしているか。

A 事前に市長から相談がある。ただし、補正予算は専処分決をさせてしまうのは危険である。

Q 不用額は注視しているか。

A 不用額については、あまり追求しない。事業を行ったか行わなかったかを注視している。かほく市の評価シートに不満がある。PDCAが見えない。例えば側溝改修の予算があります、雨の時期が過ぎてから改修しました、では意味がない。また、事業の目標値が参加者人数で、たとえそれをクリアしていたとしても、クリアするための努力が見えない。プロセスが見えない。

Q 補助事業はどのようにチェックしているか。

A 補助金も含めてチェックしている。

Q 評価として「休止」「廃止」とするケースは想定したか。

A 「休止」「廃止」はない。「改善」とする。事業実績がなければはっきり指摘する。

Q 指定管理となっている事業はチェックが甘くならないか。

A 指定管理しているのであれば、指定管理側の決算を見せていただくのが当然。



## <評価結果について>

Q 議会の評価と執行部の評価との乖離は。

A 執行部の評価や目標設定は甘い。評価結果は市民に公開されていなかった。議会が指摘することによって執行部は改善してくる。事業に一生懸命取り組んでいるのなら、是非アピールしていただきたい。アピールには私たちとしても応援が入る。

Q 議会の評価と執行部の評価との整合性は必要ないか。

A 執行部の評価がおかしいところは修正していただいている。評価シートは執行部の好意で出していただいている。予算書や決算書の備考欄では分からないところがあるので、このシートを補助資料としてどんな事業を行ったのか確認している。

Q 評価結果はどのように市民に伝えているか。

A 議会だよりに評価結果として点数を公開している。

Q 事業が議会による行政評価の対象となることは光栄なこと。「改善」「継続」「拡充」等、評価によって職員の意識は変化があったか。

A 事業の質を上げていきたいだけであり、執行部のつるしあげが目的ではない。行政評価シートが人事評価の対象となるといい。

Q 議会の評価がどのようであったか、自課以外の課の評価結果をみることはできるか。

A 評価結果は、部課長会を通じて全課に配布している。

## <提言とその後について>

Q 事業の拡充を求める評価を行ったことが反映された事例はあるか。

A 不妊不育治療費助成の拡充、若者マイホーム取得奨励金などがある。

Q 提言後の執行部の対応はどうか。チェックはどのようにしているか。

A 市長から回答はいただいている。そのかわり、指摘事項にはすぐ対応する姿勢は示していただいている。新年度予算編成方針には、議会の提言に対応するように記載がある。

提言後のチェックは課題である。新年度予算編成時にチェックしたいが、現状は1年後のチェックとなってしまっている。また、予算は認めたけれどもその決算は認めないというのは本来ではないので、予算への反映とチェックは重要。

<その他について>

Q 提言以外に、議会からの政策提案は行っているか。

A 政策提案までは行っていない。提言までである。

Q 常任委員会とすべきか特別委員会とすべきか。

A かほく市議会の場合、以前は6月に特別委員会を立ち上げていたが、早い時期から審議を行いたいことから、常任委員会としている。

Q 予算の審査過程はどのようにしているか。

A 予算についても原則として同じ。評価シートを参考に審査する。

Q 議会による行政評価を導入することについてのデメリットはあるか。

A 強いて言うなら、予算決算常任委員会としたことで、他の常任委員会の仕事が少なくなった。議会による行政評価を導入したこと自体のデメリットはない。



Q かほく市議会から美濃加茂市議会にアドバイスがあれば。

A 執行部に行政評価シートを提供していただくしかない。執行部の負担は大きいですが、当初予算要求の資料があるはずだから、形にするだけ。また、いい点数の行政評価シートほど要注意。

